



子どもの笑顔、未来のために、

きのと小 **燦** だより

子どもの方を向き、みんなで力を合わせて育てましょう

平成30年 8月29日

学校だより 第8号

胎内市立きのと小学校

<http://tainai-ed.nxc.jp/kinoto-es>



『心の才能』を持っている人！

校長 佐藤新一

100回記念だった高校野球や夏のアジア大会での感動。新潟県史上最高気温、40.8℃を記録した胎内市。今年は記憶と記録に残る夏休みでした。子どもたちも、スポ少での仲間との時間や家族や親戚との時間、地域行事で地域の方と触れ合う時間、自分の自由な時間などの中で、普段できない体験・経験をし、一回り成長した夏休みになったと思います。

さて、8月29日、元気のいい声、そして笑顔が学校に戻ってきました。この2学期もそれぞれに目標を立て、一生懸命取り組み、成長の学期にしていきます。

前向きで強い意志を持った人

立木早絵さんという人を知っていますか。8月19日は、その立木さんのトーク&コンサートが産業文化会館でありました。

2歳で失明するも、持ち前の明るさと両親の後押しもあり、様々なことに挑戦してきました。24時間テレビにも出演。16歳で津軽海峡をリレーで泳ぎ、17歳でトライアスロン(スイム1.5km、バイク40km、ラン10km)。支援は受けても自転車の同乗やランの伴走はなしでゴール(全盲の人で世界初)。18歳で、アフリカ大陸最高峰のキリマンジャロ登頂(5895m)。

「どうしてチャレンジするのですか」の問いに立木さんは「楽しそうだからやってみたい」と答えているそうです。どんなことにも楽しみを見つけていく、自分に負けず嫌いで一度決めたらやり通す、そして人として成長していきたいという言葉に、苦境に対しても前向きで強い意志を感じます。目が見えないという大変なハンディキャップがあるのに、立木さんは「誰にでも苦手はある。私は見るのが苦手なだけで、普通です」と答えています。

CHALLENGE

心の才能が一番大切

『一番大切なのは心の才能です。心の才能とは、自分に困難なことや挑戦しなければならぬ課題が来た時に、最初から出来ない、難しそうと諦めず、面白そうと思ってやること、好奇心旺盛であることです。努力して出来なかった時に「自分には才能がない、向いていない」という言葉で片付けずに、「自分は努力が足りないんだ」「もっと頑張ろう」と思える人が、心の才能のある人です。分からなかったら「分かるまで勉強しよう」「分かるまで先生に聞こう」と考えられることが心の才能のある人なのです。その思いは人を必ず動かします。』とは、女子シンクロの井村雅代コーチの言葉でもあります。

『心の才能』とは、何事にも常に前向きで、素直に受け止め、他人や環境のせいにはせず絶えず努力をする才能』と寺町さんという方も紹介しています。仕事やスポーツで必要な知識や技術や体力は、勉強やトレーニングで身に付けることが出来ますが、心の才能は本人が自ら育まなければならない部分で、上司やコーチが教えることは出来ないようです。幼い子を育てる時に心の才能をいかに親が育むかにかかっているということです。立木早絵さんは、両親に生まれ心の才能を伸ばしてきたのだと思います。



この2学期も自ら挑戦できるものがいくつかあります。子どもたちが素直に受け止めコツコツ取り組むことができるよう、学校でも家庭でも声をかけ「心の才能」を伸ばせたらと思います。

2学期もご支援ご協力よろしく申し上げます。

最後に、努力するにあたってしてはいけないことは、明日からしようとする事だとか。耳が痛い。